

平成28年4月7日（木）



— 記者発表資料 —

国土交通省
東日本高速道路株式会社

平成27年10月31日(土)に圏央道(桶川北本IC～白岡菖蒲IC)が^{おけがわきたもと}開通

圏央道で湘南が身近に！ 観光客の2割増に貢献

～ 圏央道埼玉県区間 全線開通3ヶ月後のストック効果※をお知らせします～

※ スtock効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果。

＜主なストック効果＞

○湘南地区への観光客が増加 (p2～3)

- ・湘南地区では、北関東など遠方からの観光客の増加を実感との声
- ・圏央道で湘南地区へ来訪した車が約4割増加、観光客の約2割増加に貢献
- ・地元では広域観光交流に向けた取り組みが始まった

○配送時間短縮により物流の生産性向上に寄与 (p4)

- ・アクセス性に優れた白岡菖蒲IC付近に大型物流センターを立地
- ・圏央道の開通により、配送時間が30分短縮
- ・今後は、トラックの有効活用による配送効率化を進め更なる生産性向上を検討

○生活道路の安全性が向上 (p5)

- ・圏央道の開通により、混雑を避け生活道路に流入していた交通量が減少
- ・川越栗橋線の周辺では、急ブレーキ発生回数がほぼ半減
事故発生件数が約21%減少（県全体は約7%減少）

○通行止め時の広域迂回ルートが確保 (p6)

- ・外環道など圏央道周辺の高速道路で通行止が発生しても、圏央道を利用して迂回することで、一般道での渋滞を回避

平成28年度には、東名高速から東関東道が圏央道でつながります。
圏央道（境古河IC～つくば中央IC間）開通予定

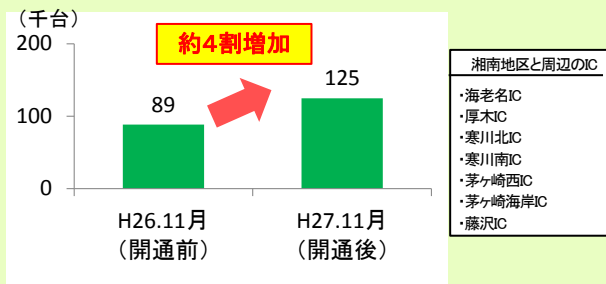
効果① 湘南地区への観光客が増加

- 湘南地区では、北関東など遠方からの観光客の増加を実感との声
- 圏央道で湘南地区へ来訪した車が約4割増加、観光客の約2割増加に貢献
- 火山活動による影響を受けた箱根町の観光客も回復傾向。開通した圏央道による更なる来訪に期待

湘南地区から東北道まで圏央道がつながったことにより、観光交流がより広域に！

湘南地区と周辺のIC利用台数の変化

(下図の集計対象地域内のICから湘南地区と周辺のICへの移動台数を集計)



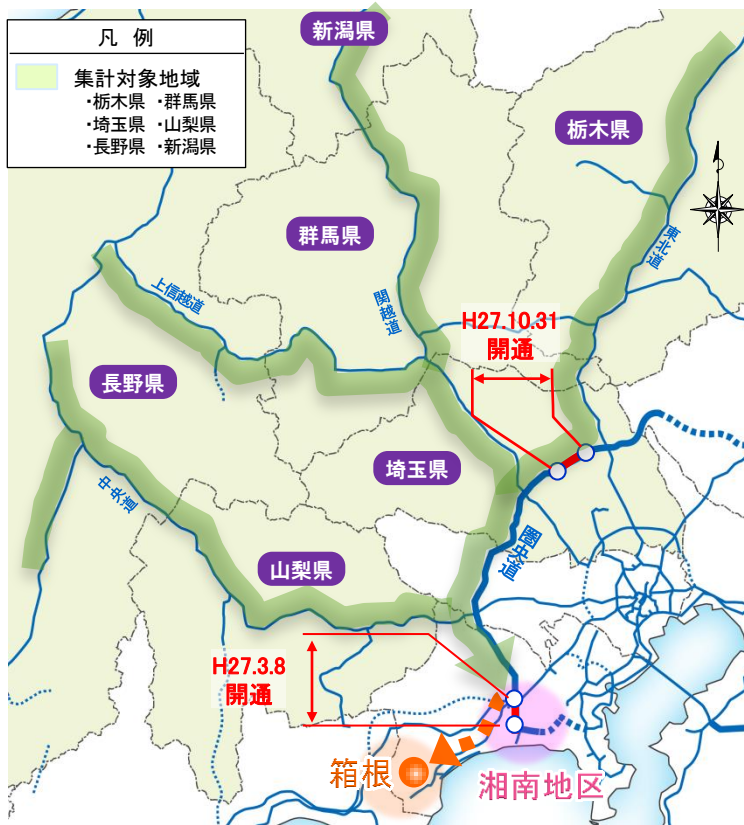
■湘南地区観光振興協議会の声



地元駐車場からは北関東ナンバーの車が増えたという声を聞いており、遠方からの観光客が着実に増えていることを実感しています。

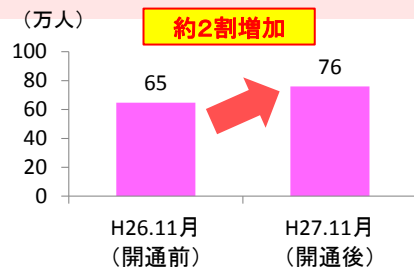
湘南地区としても圏央道の開通は大きなチャンス、大きな喜びであり、今後も精力的な誘客活動を実施していく予定です。

出典: 平成28年3月 ヒアリング調査(横浜国道事務所調べ)



観光客も増えています！

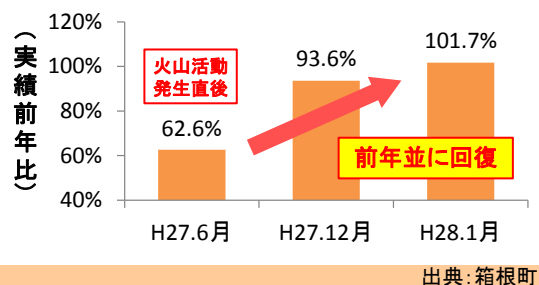
湘南海岸・江の島の観光客数の変化



江の島シーキャンドルライトアップ
写真提供: 藤沢市

箱根町の観光も回復傾向！開通した圏央道による更なる来訪に期待

箱根観光客の変化(宿泊業)



■山口昇士 箱根町長の声



昨年は大涌谷周辺の火山活動により観光客の減少という大きな影響を受けたが、年末からようやく回復傾向にある。

圏央道が神奈川県から東北道までつながったことで北関東や東北から箱根にとても来やすくなっており、多くの方々の来訪を大いに期待している。

出典: 平成28年1月 ヒアリング調査(横浜国道事務所調べ)

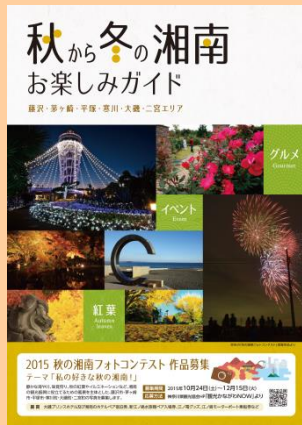
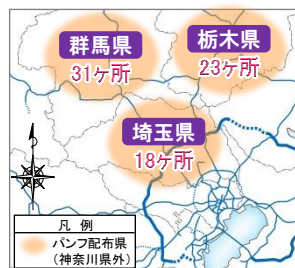
効果② 広域観光交流に向けた取組み

- 地元では、地域を元気にする“地方創生”に向けた取組みが始まった
- 湘南地区では「お楽しみガイド」を製作し、北関東方面の道の駅を中心に配布

北関東方面から湘南地区への誘客の広報

北関東方面から近くなった湘南地区の観光を呼びかけるため、湘南3市3町（藤沢・茅ヶ崎・平塚・寒川・大磯・二宮）の秋から冬の見どころをまとめたパンフレットを製作。

群馬県・栃木県・埼玉県の道の駅を中心に72箇所、約1万3千部を配布。



資料:「秋から冬の湘南お楽しみガイド」
(発行:湘南地区観光振興協議会)



「圏央道広域観光周遊」の広報 (2016年1月26日 関東7紙)

* 茨城新聞社・下野新聞社・上毛新聞社・埼玉新聞社・神奈川新聞社・千葉日報社・山梨日日新聞社

■千葉日報社からの声

関東7社同一紙面掲載で交流人口が増加
圏央道は地方創生の要となる道路

圏央道は関東7県にとって新たな交通の“大動脈”となり、観光だけでなく流通にも大きな変革が表れている。

各県観光スポットへの行程時間短縮による観光客の増加、流通企業の物流拠点の設置等、地域経済の活性化につながり“地方創生”に寄与している。

地元根付いた関東7県の県紙が協力することで、近隣県の情報を読者に広く訴求することができ、広域周遊観光への足掛かりとなっている。これにより交流人口が増加し地域振興の一助となる。

地方創生の要となる圏央道の全線開通を関東7社は全力で応援する。

出典:平成28年3月ヒアリング調査(関東地方整備局調べ)



効果③ 配送時間短縮により物流の生産性向上に寄与

- 化粧品・日用品、一般用医薬品の卸売業の最大手「(株)PALTAC」は、関東エリアでの事業拡大のため、アクセス性に優れた白岡菖蒲ICに、最新大型物流センターを立地
- 圏央道の開通により、白岡菖蒲IC～入間IC間の配送時間が75分から45分と30分（4割）短縮したとの声。
- 今後は、トラックの有効活用による、配送効率化を進め更なる生産性向上を検討中

圏央道を活用する物流業者の声

【(株)PALTAC】卸売業

- 最大市場である関東エリア（1都6県）において事業を拡大するため、利便性の高い広域ネットワークが形成された圏央道沿線（白岡菖蒲IC）に、平成27年8月「RDC関東」（大型物流センター）を設置しました。
- 圏央道開通により、「RDC関東」から入間IC周辺の小売業様への配送時間が約75分から約45分に短縮しました。
- 今後は、RDC関東とRDC横浜を連携させ、入間IC周辺への配送後RDC横浜から埼玉方面への配送を行うなど、配送効率化による更なる生産性向上を期待しています。



(株)PALTAC「RDC関東」(2015年開設)の概要
事業内容 化粧品・日用品、一般用医薬品等の卸売事業
所在地 埼玉県白岡市

桶川北本IC～白岡菖蒲IC間の開通により、配送時間が30分短縮

開通前



開通後



各物流センターと連携した配送先の効率化（検討中イメージ）

現在



将来



● : 物流センター

→ : 配送経路

効果④

生活道路の安全性が向上

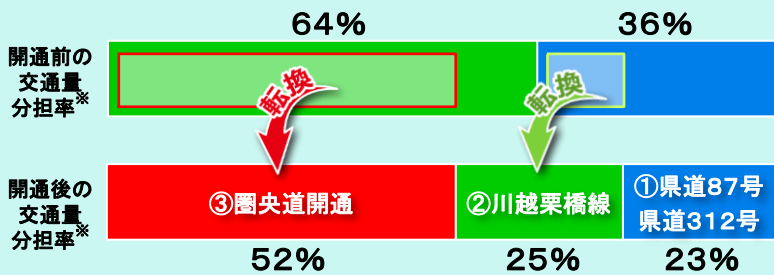
- 圏央道の開通により、川越栗橋線の交通が圏央道に転換。混雑を避け生活道路に流入していた交通量が大幅に減少
- 川越栗橋線の周辺では、渋滞発生時間・急ブレーキ発生回数がほぼ半減
- 埼玉県全体の事故発生件数が約7%減少しているのに比べ、川越栗橋線周辺では圏央道の整備効果もあり約21%と大幅に減少

圏央道に並行する川越栗橋線周辺地域の交通状況

平成27年10月31日開通



玉突き効果

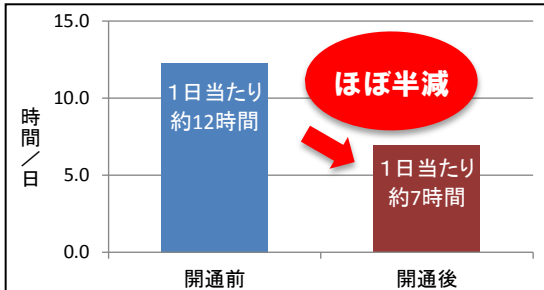


開通前: H27.10.1～H27.10.30 開通後: H27.11.1～H27.11.30
出典) ETC道路プローブデータ ※分担率: 路線間の交通量(期間内の合計サンプル台数)の割合

川越栗橋線の交通状況



川越栗橋線周辺地域での渋滞発生時間※1の変化



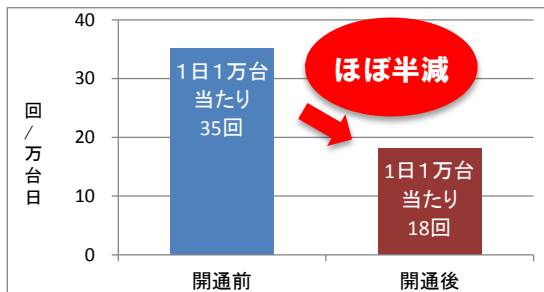
開通前:H27.10.1~H27.10.30

開通後:H27.11.1～H27.11.30

出典)ETC道路プローブデータ

※1:各月・各時間帯別の区間旅行速度20km/h以下の時間帯

川越栗橋線周辺地域での急ブレーキ発生回数※2の変化



開通前:H27.10.1~H27.10.30

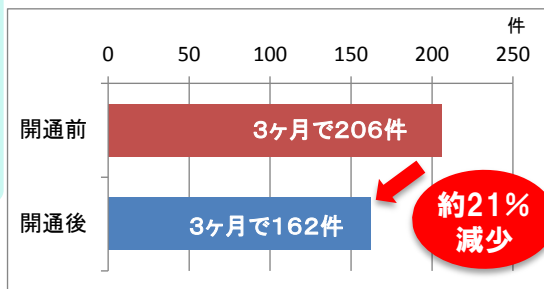
開通後:H27.11.1~H27.11.30

出典)ETC道路プローブデータ

※2: 単位車両あたりの-0.3G以上の急減速発生回数

「減速度0.3G以上」を急ブレーキと定義。一般的に旅客輸送では0.3Gを越えると乗客に不快感を与えるとされている。

川越栗橋線周辺地域での事故発生件数の変化



開通前：H26.11～H27.1

開通後：H27.11～H28.1

出典) 埼玉県警察本部データ

死傷事故発生件数の推移（物損は含まない）

参考)埼玉県全体の事故件数の比較

開通前:8208件

開通後:7651件(約7%減少)

効果⑤ 通行止め時の広域迂回ルートが確保

- 外環道など圏央道周辺の高速道路で通行止が発生しても、圏央道を利用して迂回することで、一般道での渋滞を回避



川口JCT～鶴ヶ島JCTのルート

- ◀ ◻ ▶ 圏央道開通前の迂回ルート (関越道・一般道・外環道利用)
- ◀ ◻ ▶ 圏央道開通後の迂回ルート (圏央道・東北道利用)

<外環道通行止発生時の川口JCT～鶴ヶ島JCTの所要時間(推定)>

- ・関越道・一般道・外環道利用 : 約50分 (所沢IC～和光ICは一般道(国道254号)利用)
- ・圏央道・東北道利用 : 約35分

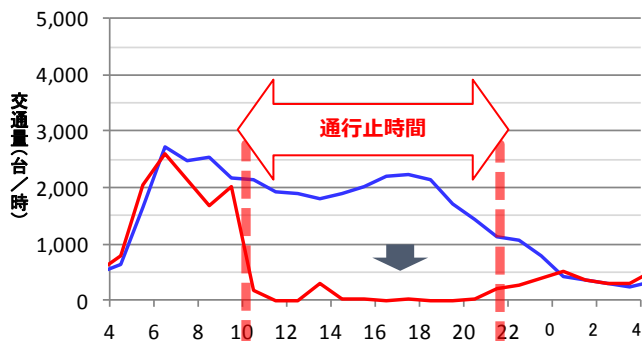
【参考:通行止めが発生していない場合】
・関越道・外環道利用 : 約30分

出典:NEXCOデータ、H22センサスデータより算出

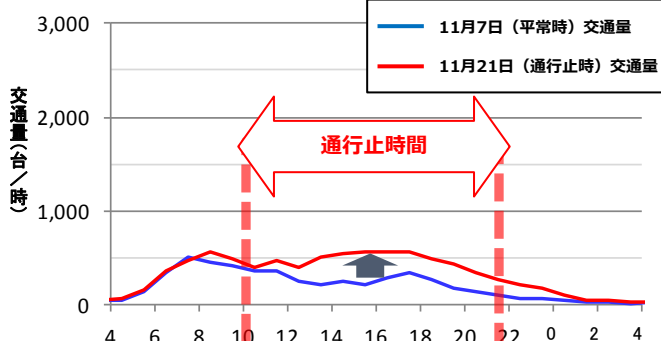
<外環道の通行止発生事例>

① 通行止区間:大泉JCT～和光IC(内回り) 通行止時間:H27年11月21日(土) 10:10～21:45

外環道 (大泉JCT～和光IC内回り)

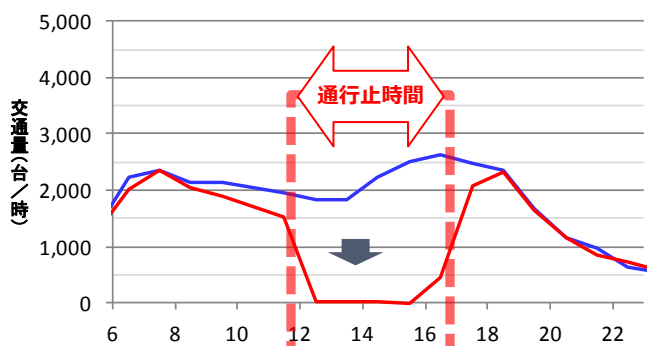


久喜白岡JCT Hランプ (東北道下り⇒圏央道内回り)

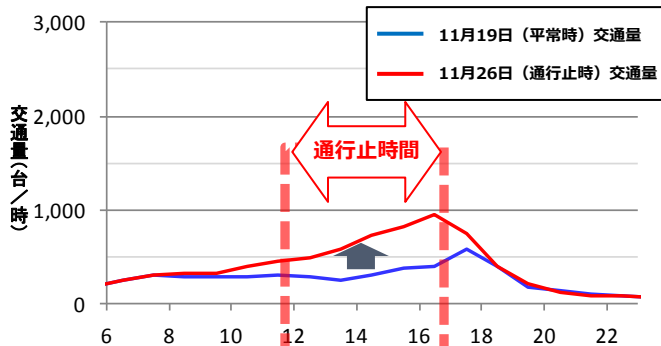


② 通行止区間:大泉JCT～和光IC(外回り) 通行止時間:H27年11月26日(木) 11:55～16:40

外環道 (大泉JCT～和光IC外回り)

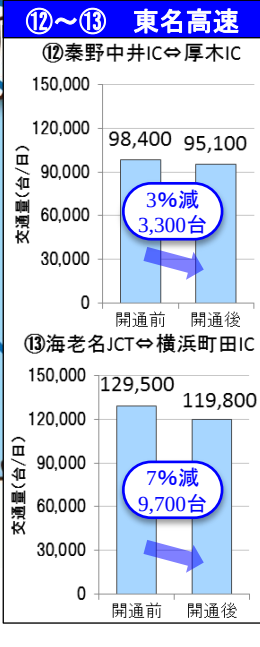
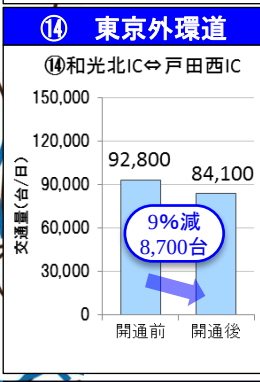
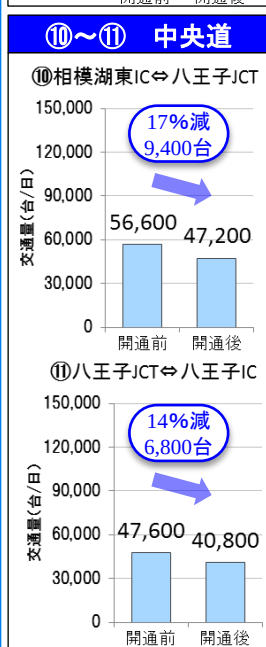
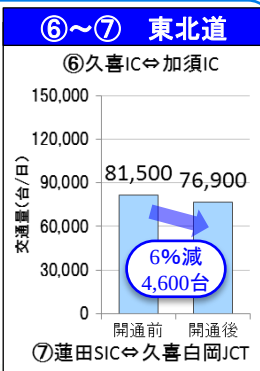
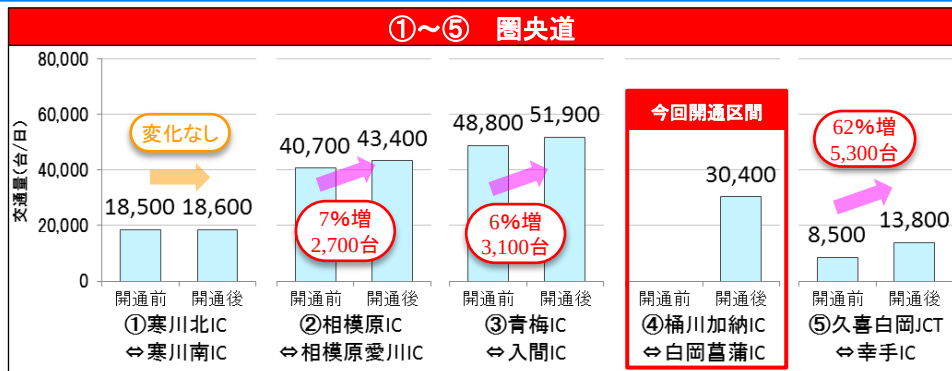


久喜白岡JCT Eランプ (圏央道外回り⇒東北道上り)



※出典:NEXCOデータ

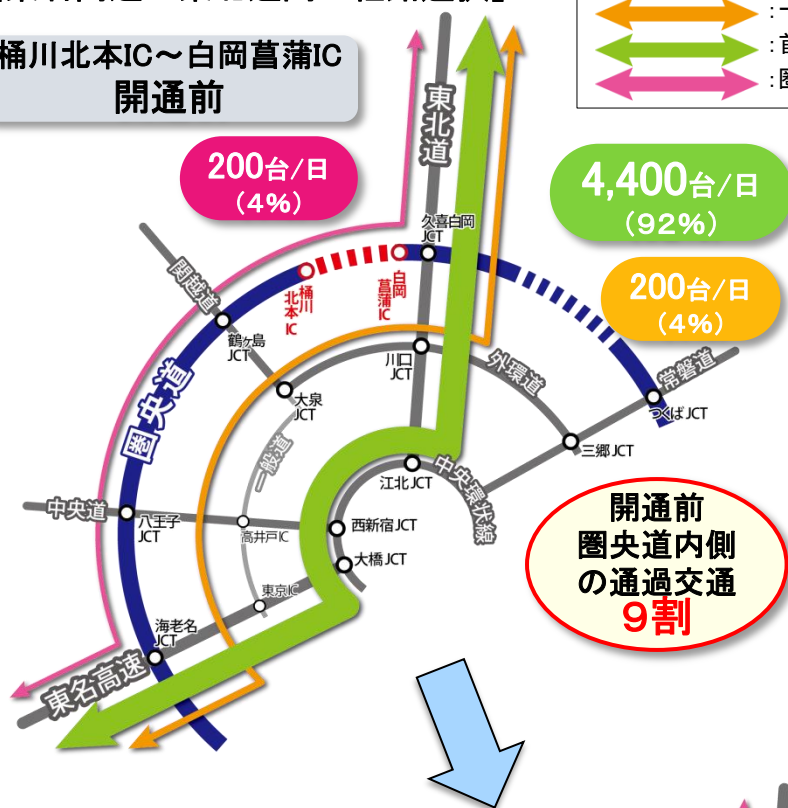
- 今回開通区間（桶川加納IC～白岡菫蔦IC）の交通量は、平均30,400台/日
- これまでに開通している圏央道の関越道～中央道間、中央道～東名高速間の交通量が約6～7%増加
- 東名高速では、圏央道の迂回機能によって圏央道内側の交通量が減少（-9,700台/日）
- 今回開通区間に並行する外環道では、圏央道への転換により交通量が減少（-8,700台/日）



- 圏央道内側の通過交通が9割⇒3割に減少、交通の転換が引き続き図られています。
- 道路利用者から移動時間の変化を実感頂いています。

【東名高速⇄東北道間の経路選択】

桶川北本IC～白岡菫蒲IC
開通前



- ⇄ : 一般道を利用して圏央道内側を通過するルート
- ⇄ : 首都高を利用して圏央道内側を通過するルート
- ⇄ : 圏央道を通過するルート

圏央道の内側の高速道路や首都高速利用者の声

【東名高速 港北PA利用者】
圏央道の開通後、渋滞が少なくなり運転がスムーズになったと思います。
目的地までも早く行けるのでありがたいです。



【首都高速川口PA利用者】
・圏央道の開通後、首都高の渋滞が減ったと感じます。
時間が読めるようになりありがたいです。

出典) PAアンケート調査
東名高速 港北PA: 平成28年1月26日(火)
首都高速 川口PA: 平成28年1月31日(日)
(大宮国道事務所調べ)

圏央道内側の交通が
9割から3割に減少

桶川北本IC～白岡菫蒲IC
開通後



4月からの首都圏の新たな高速道路料金により
さらなる転換が期待

出典) ETCログデータ
圏央道開通前: 平成27年10月1日(日)～30日(土)の平日
圏央道開通後: 平成27年11月1日(日)～12月25日(金)の平日
※東名高速の集中工事期間
平成27年11月16日(月)～11月27日(金)を除く

圏央道開通区間概要

●首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした、都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。平成27年10月31日（土）、桶川北本IC～白岡菖蒲IC間、延長約10.8kmが開通したことにより、圏央道埼玉県区間は全線開通となりました。圏央道埼玉県区間は昭和60年度、都県境～関越道間の事業化に始まり、約30年の年月を経て全線開通を迎えたことになります。今回の開通により、圏央道は、現在までに約241kmが開通しています。

●今回開通区間の概要

路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

○開通区間：桶川北本IC（埼玉県桶川市川田谷）～白岡菖蒲IC（埼玉県久喜市菖蒲町上大崎）

○開通日：平成27年10月31日（土）15時

○延長：10.8km

○車線数：4車線

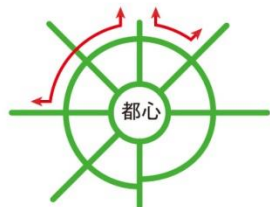
○開通IC：桶川加納IC

○開通PA：菖蒲PA

環状道路の4つの役割

交通の流れをスムーズに！

1 都心を通るだけのクルマを減らして渋滞緩和へ。



通過交通の都心流入を抑制します。

2 郊外からいろいろなルートで都心へ。渋滞も緩和へ。



郊外から都心への交通を分散導入します。

3 地域間の移動をスムーズに。



周辺地域の移動が直接できます。

4 災害時などの代替の道、確保へ。



災害や事故などで一部区間の不通があっても速やかに移動できます。

■今回開通区間の位置図

